

芹沢文学読書会

案内通信

No. 146

2020年10月23日(金)

(令和2年)

10月便り — 豊作の柿の実 熟し カラス食う… 松林庵主人 —

新型コロナウイルスの流行が第2派となり続いています。全世界では感染者4124万人、死者が113万人を越えました。日本では感染者9万5千人を越えましたが、死者は1698人に抑えています。大分県は感染者1594人、死者3人で、九州では最少です。

秋も深まり、朝夕は肌寒くなりました。食欲の秋、読書の秋です。芹沢文学を読み、平穩無事に日々を生きて行きたいものです。

11月の芹沢文学読書会は8日の予定でしたが、大分県立図書館の行事が入り、15日に変更せざるを得なくなりました。七五三の日のようですが都合をつけて御出席下さい。研修室もNo.4になります。令和元年度の会計報告を御了承下さい。新年度になりますので、年会費の納入もよろしくお願ひします。

感染対策を十分に、継続していきたいと思ひます。マスクを付けて、御参加下さい。最近、御無沙汰の方も、気楽に御参加下さい。新会員も歓迎します。

第146回・芹沢文学読書会

- ①日時： **11月15日(日)** 午前10時～12時 【*特別に奇数月の第3日曜日午前】
- ②会場： **大分県立図書館 研修室No.4** [*会場/特別に研修室No.4です]
- ③内容： **〔I〕芹沢文学に関する話題や情報** 10:00～10:15 am 自由に話す。
〔II〕芹沢文学読書会 10:15～12:00 am 司会担当 小串 信正
- テキスト 随筆①「富士山はわがいのちの恩人」 随筆②「物言わぬ神の意思に言葉を」
- ①随筆は、『神の慈愛』を書き下ろして、少年の日に富士山に助けられたこと等。
②随筆は、フランス留学を回想し、天才ジャックに啓発された神に励まされ連作を創作中。
- 初出/①は昭和62年7月の社誌<波>新潮社 ②は同63年7月の社誌<波>新潮社に発表。
②は平成2年1月15日 新潮社発行の『私の昭和』にも収録された。
- 再録/『芹沢光治良文学館12』(平成9年8月10日 新潮社発行)に収録。432～536頁。
=次回は、令和3年1月8日(日)午前の予定です。原則的には奇数月の第2日曜日です=

◎同封資料；①随筆 同人雑誌「私の立場」芹沢光治良 雑誌<文學界>八月號 昭和22年8月1日 文學界社発行。[資料提供 中村輝子] ②新聞記事「中1団体2個人に県文化奨励賞」新聞<沼津朝日> 2020年(令和2年)10月16日(日曜日) [資料提供 芹沢光治良記念館] *①は、同人雑誌<文學界>に、戦後すぐに文學界同人を継続する立場について率直に所信をのべたものです。②は、今年の10月15日に静岡県から沼津市芹沢光治良記念館の活動に「文化奨励賞」が授与されたことを新聞<沼津朝日>が報じた新聞記事です。

芹沢文学・大分友の会



連絡先： 〒872-1651 大分県国東市国東町浜 4765(番地) 小串信正

☎ FAX 0978(77)0565 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会



☆ **第145回・芹沢文学読書会の報告** 於 大分県立図書館・研修室No.5 ♪ ♪ ♪ ♪

第145回の芹沢文学読書会が、9月13日(日)に大分県立図書館の研修室No.5で行われました。令和元年度の会計報告をして、中村輝子さんに監査をしてもらいました。

芹沢光治良記念館の企画展「光治良と沼中・東高」の図録を説明し、回覧してもらいました。テキストとして随筆の二作を読み語りました。「心友・石川達三君の死」は、作家石川達三氏の死去に当って、50年間の交流について書いた随筆です。石川達三が、昭和8年に芹沢邸を訪ねて『蒼氓』を読んでいたきたいと依頼された。雑誌<改造>の懸賞に応募したが、佳作になった。昭和10年春に同人雑誌<星座>に発表され、第一回の芥川賞に選ばれたとか。随筆「九十歳の充実」は、晩年の連作である第一作『神の微笑』を書き下ろして、新潮社から出版することになった昭和61年6月に書いた回想的な随筆です。

次回も随筆二作を読みたいと思います。都合をつけて御参加下さい。

◎令和元(2019)年度 **芹沢文学・大分友の会 会計報告** (2019.9~2020.8) ♥ ◇ ♣ ♠

＝少し遅くなりましたが、会計報告をいたします。御了承下さい。＝

収入の部	前年度繰越	7,815 円	支出の部	切手代	9,330 円
	会費収入	10,800		文具代	2,679
	寄付収入	15,600		コピー代	17,500
	テキスト代	1,600			29,509
		<u>35,815</u>			

会計決算 35,815－29,509＝6,306 円(振替5,666＋現金640)

会計責任 小串信正・会計監査 中村輝子

【反省点】

- ①芹沢文学・大分友の会として「芹沢文学読書会」を24年間継続しました。会員数は12名になっています。芹沢文学研究会と兼ねる会員は8名です。読書会への参加者が約5名にまで減っています。何か工夫して新入会員を増やしていかなければなりません。御意見をお寄せ下さい。
- ②熱心な会員の篤志の寄付で、年会費を1200円に維持しています。読書会には参加出来ないが、通信会員として継続してくれている人々もいます。関係者や記念館、図書館、新聞社などへも会報をお贈りしています。運営は何とかやれています。今後もよろしくお願いします。

今後も、会報を年6回発行し、読書会を奇数月に年6回は継続して行きたいと思えます。

○**令和2(2020)年度の年会費の納入をお願いします(振替や持参で)** ♪ → ☆ ☆

9月から新年度になりました。年会費の納入をお願いいたします。篤志者の寄付により**今年度の年会費も1200円**に止めていますので、納入をお願いいたします。同封の郵便振替の払込取扱票にて納入して下さい。寄付も受入れますが、無理をされないように。

芹沢文学研究会の会員の方で、芹沢文学・大分友の会にも入会いただいている方々にも会員の継続をお願いいたします。2年分を振込まれることも受入れます。

*どうしても退会されます方は、ハガキ等にて御一報下さい。前年の年会費が未納で退会される方は、未納の年会費を納入してから退会して下さい。